

SAME(学校と道德教育)研究会

ニューズレター Vol.1

(2010年12月1日 発行)

<内容>

- 1 第6回 SAME 研究会 活動報告
- 2 第7回 SAME 研究会のお知らせ

1 第6回 SAME (学校と道德教育) 研究会—活動報告

平成22年8月28日(土曜日)、広島大学文学研究科リテラにおいて第6回 SAME(学校と道德教育)研究会が下記のプログラムで開催され、多数の先生方にご参加頂きました。この研究会の様子をお伝えいたします。

文責:上村 崇(海上保安大学校)

【プログラム】

- [1] 開会あいさつ 越智 貢 (広島大学大学院文学研究科教授)
- [2] 道德の模擬授業—主題「きまりを守る」
授業者 松尾賢徳 (安芸郡坂町立坂中学校教諭)
道德の模擬授業に係る研究協議
- [3] 実践報告及び研究討議
実践報告① 高橋倫子 (三原市立中之町小学校教諭)
実践報告② 村本勝彦 (廿日市市立阿品台中学校教諭)
- [4] シンポジウム 「道德授業で困っていること・知りたいこと」
「道德教育に係る校内研修会の在り方・進め方」
コーディネーター 越智 貢 (広島大学大学院文学研究科教授)
シンポジスト 松田美祈子 (三原市立中之町小学校校長)
竹田敏彦 (三原市立第二中学校校長)
奥田浩明 (広島県立安芸南高等学校主幹教諭)
衛藤吉則 (広島大学大学院文学研究科准教授)
- [5] 閉会あいさつ



[1] 開会式

研究会は、越智貢先生（広島大学大学院文学研究科教授）の「学校や年齢、立場を越えてみんなと一緒に (SAME) に道徳教育について話し合いましょう」という言葉ではじまりました。

[2] 道徳の模擬授業—主題「きまりを守る」

授業者 松尾賢徳(安芸郡坂町立坂中学校教諭)

松尾先生は、新聞に掲載された投書記事をもとに自作した資料「違反摘発受け臨終に会えず」を用いて、きまりを守ることの大切さについて考える授業を展開されました。違反を摘発する警察官と父親の臨終に間に合わずにスピード違反をしてしまった川瀬さん、どちらに共感するかということについて役割演技をすることで生徒に考えさせながら、病院に急ぐ車にはねられて叔母を亡くしてしまった人の投書を新たに提示して、規則を守る重要性について深める授業実践でした。研究会の参加者も生徒役で授業実践に参加して、役割演技をしながら「規則を守る」ことについて一緒に考えました。

その後の研究協議では、「役割演技を効果的に授業に取り入れているが、規則を守る理由を問うことが目的なのか、川瀬さんに共感することが目的なのか、目的を明確にしたほうがよい」という意見や、「生命の尊重と規則の遵守というモラルジレンマとしてこの資料を活かすにはどうすればよいか」といった活発な議論が交わされました。

[3] 実践報告①

高橋倫子(三原市立中之町小学校教諭)

高橋先生には、中之町小学校の「心に響く道徳の時間」を課題にした道徳教育の実践を報告して頂きました。校内研修体制を充実させ、全職員で授業研究を行っていることや、道徳の授業では発問を効果的にするために、書く活動からペアトーク、全体での対話へと段階を経る工夫がされていることなど、細かく報告頂きました。

[3] 実践報告②

村本勝彦(廿日市市立阿品台中学校教諭)

村本先生には、阿品台中学校での道徳教育の取り組みを報告して頂きました。中学生という多感な時期に親への感謝の気持ちを喚起させるために、映像資料「天国からのビデオレター」を効果的に利用しながら母親の愛情を伝える報告でした。

[4] シンポジウム

「道徳授業で困っていること・知りたいこと」

「道徳教育に係る校内研修会の在り方・進め方」

シンポジウムは、越智貢先生にコーディネーターを務めて頂き、松田美祈子先生（三原市立中之町小学校校長）、竹田敏彦先生（三原市立第二中学校校長）、奥田浩明先生（広島県立安芸南高等学校主幹教諭）をパネリストに迎えて行われました。

① パネリストの先生方のお話

松田先生からは、高橋先生の実践報告でも触れられた中之町小学校の道徳教育の研修会について具体的にお話しして頂きました。学校が荒れていたことから道徳教育の実践を学校の中核にすえて、校内が一体となった組織作りを進めてきたこと、道徳教育の実践では、道徳教育を推進する教師が大きな要となり、研究主任を9人配置し、新任の先生も含めて全員で研修を行っているといったことを語って頂きました。

竹田先生からは、まず小学校の道徳教育が組織的であり、授業そのもののレベルが高いことにくらべて、中学校の教師が道徳教育にどれだけ熱心か若干気になるという、小学校と中学校の道徳教育の対比からお話をはじめました。中学校の教育現場では、学力重視で道徳教育への関心が下がってきていること、生徒指導や学力の向上にも道徳教育は大きな効果を発揮するものであるということも語って頂きました。道徳教育が効果を発揮するためには、教師主導の授業ではなく、気づかせたい価値に迫るべく、子どもたち同士及び生徒と教師の相互作用が重要になってくること、道徳の授業と子どもたちの日

常生活を有機的に結びつけることが課題であると指摘して頂きました。

奥田先生からは、高等学校の道德教育について語って頂きました。政治経済の授業で大きな政府と小さな政府について説明しても、どちらの政府が「よい」政府なのかということになると判断できない。こうした判断力を育成することが高等学校では必要であると奥田先生は言われます。知識判断だけではなく、価値判断が重要なこと、高等学校の道德教育では道德的判断力を育成することが必要であることです。また、学力向上が学校の目的であるとしても、道德教育の実践がなくては学力は向上しないということから、学校の全活動をとおした道德の実践が必要であるとのことでした。

② 校内研修体制を充実させる秘訣とはどのようなものか？

シンポジウムでは、事前に参加者のみなさまにお配りしたアンケート用紙に書かれた道德授業の課題についてフロアを交えて話し合いました。その内容についてもお伝えいたします。まず、「校内研修体制を充実させる秘訣とはどのようなものか」という質問が寄せられました。この質問は、多くの方がアンケート用紙に書かれた課題でもあります。

松田先生は、人事が決まった4月2日から第一回校内研修を実施し、道德教育のイメージを伝えることから始め、10日には道德の教材資料の読み方、分析の仕方まで研修すると答えて頂きました。また、ベテラン教師が積極的に新任教師にもかかわり、一緒に教材研究を楽しく進めながら、指導を適宜していくということでした。新任教師であろうとベテラン教師であろうと、指導案の検討時には厳しい批判をお互いにするように心がけていることもつけ加えられました。

竹田先生からは、中学校でも研修体制はできているが、部活動や生徒会活動など教師が生徒にかかわる活動が多いため、どのようにすれば研修の時間を生み出すことができるかが大きな課題だということでした。また、授業研究に係る研修のなかでも研究協議会が大切であり、授業を実際に参観した上で

協議することが道德教育を効果的に進めていくことにつながるという話でした。

奥田先生からは、普通に道德の授業をしていても他の教師は時間的な制約もあり参観することができないということでした。高等学校の先生は教材研究は熱心だが発話方法の研究などをしない現状があるため、この研究意識を変えていくことが必要であるのではということでした。高等学校のキャリア教育と道德教育を関連づけて考えていけば、学校内でも道德教育の活動を行いやすいのではないかという提案もされました。しかし、中心になっていた教師が異動するとそこで道德教育の研修も途絶えてしまう現状があるとも述べておられました。

③ 校内研修の運営方法

「校内研修を具体的にどのように運営していけばよいか」という質問も寄せられました。

竹田先生は、授業実践を参観する大切さを強調されましたが、いい授業を見る、とりわけいい授業をする教員に学ぶことが大切だと述べられました。その上で、どこがよいのかを考えることによって、自分の授業を改善することが大切であり、そのためにも、授業を解説して授業の見方を提示してくれる人がいなくてはならないとされ、その意味で研究協議が必要なのだとのことでした。また、各学校に道德の授業のうまい人が必ずいること、管理職の仕事は、積極的に先生の優れた授業を評価し、真似てみることを推奨することだということをつけ加えられました。

松田先生は、授業をすれば「ここがいいね」といって誉めてくれる教師がいることが大切だと述べられました。新規採用の教師の例を挙げて、7月まで誉めて、8月に自己研修をしてもらった。そうすることで、9月には完璧な授業作りができたということも語って下さいました。教師も自己肯定感が重要で、誉めながら育てていくことが重要であるということでした。具体的な運営については、週に一回は道德の授業を行い、教師は積極的に授業を参観すること、さらに子どもたちが帰ってからいろんな学年の先生がその道德の授業について話し合うとい

うチームプレーを実践していると言われました。さらに、道徳のコーナーを設置して、前の授業内容を挿絵にして教室に残しておくなどして、授業内容を継続させる工夫をしていると述べられました。

奥田先生は、校内研修などチームプレーが一番弱いのが高校であるということを指摘したうえで、専門性の高い教科の研修では他教科の教師はなかなかものが言えないが、道徳の授業だけは教科に関係なく話し合うことができるため、道徳の研究指定校になれば他の教師を巻き込むきっかけができるということを言われました。

竹田先生が、「道徳教育の目標」の道徳性の育成は「すべての教科・領域において行われるべき」と

いう原点に立ち返って、道徳の時間を要しながら、各教科等にまたがって道徳実践力を育成し、道徳習慣を身につけるような視点を持つことが大切であることを述べられ、シンポジウムを終えました。

[5] 閉会式

最後に、衛藤吉則先生（広島大学大学院文学研究科准教授）が、「今日話し合ったことを一人一人が持ち帰って、道徳教育の実践をそれぞれの現場で実践していきましょう」という言葉で、研究会が締めくくられました。

2 第7回 SAME(学校と道徳教育)研究会のお知らせ

下記の日程で第7回 SAME（学校と道徳教育）研究会が開催されます。みなさまふるってご参加下さい。

第7回 SAME(学校と道徳教育)研究会

日時：平成23年2月4日（金曜日）13:00～17:00

場所：広島大学付属三原小学校

主題：「楽しい授業づくり」

13:00～13:35	ワークショップ（自己表現力開発・図工）
13:45～14:30	公開授業①（国・算・理・ <u>道徳</u> ）*道徳の授業者 副校長 宮里智恵
14:40～15:25	公開授業②（国・算・社・図工）
15:35～16:15	授業別協議会①（国・算・理・ <u>道徳</u> ）
16:20～17:00	<u>SAME研究協議会</u> （道徳教育－実践交流）